

兵庫県立美術館～神戸市立王子動物園エリアにおける 「ミュージアムロード」整備と活性化の取組み

監修：兵庫県立美術館
営業広報グループリーダー
古巻 和芳

1. 兵庫県立美術館とミュージアムロード

(1) 兵庫県立美術館開館までの経緯

兵庫県立美術館の前身である兵庫県立近代美術館は昭和45年10月に、現原田の森ギャラリー及び横尾忠則現代美術館のある神戸市灘区・原田の地に開館した。平成6年4月に兵庫県立美術館基本構想検討委員会を設置し、阪神・淡路大震災を経た平成7年6月に県立美術館基本構想を決定、「HAT神戸」地区で新しい美術館を建設することとなった。平成9年3月に国際公募型プロポーザルを実施し、設計者を安藤忠雄建築研究所に決定した。そして西日本最大級の延床面積を有する美術館が計画された。そして平成11年3月に着工し、平成14年4月に開館した。



兵庫県立美術館の外観
写真提供：兵庫県立美術館

(2) 命名ー「ミュージアムロード」

平成22年4月、蓑豊氏が兵庫県立美術館館長に就任した。蓑氏は金沢21世紀美術館で金沢新駅舎と美術館を結ぶ道を「ミュージアムアベニュー」としてパブリックアートを設置するなどの取組みをされていた。これは美術館には「無料ゾーン」というものが大切であるという考え方に基づくもので、蓑氏はこの考え方を兵庫県立美術館でも取り入れたいと思い、兵庫県立美術館から神戸市立王子動物園までの道路を「ミュージアムロード」にしてもらいたいと考えた。旧知の仲であり、美術館を設計した安藤氏にこの考えを話すと「神戸のコブシの木を寄贈する」といわれた。そこで神戸市の矢田市長に話を持ちかけて「ミュージアムロード」が実現する運びとなった。平成22年12月18日、同区間の道路を「ミュージアムロード」と命名する式典が阪神電車岩屋駅前広場で行われ、安藤忠雄氏から神戸市に寄贈されたコブシの記念植樹が行われた。



「ミュージアムロード」命名式式典
写真提供：兵庫県立美術館



上：「ミュージアムロード」の標識
 右：「ミュージアムロード」の位置
 写真提供：兵庫県立美術館

(3)パブリックアートの設置

美術館を核として文化の香りあふれるまちにしていきたいという思いで、目に見えるかたちで親しみをもってもらうためにパブリックアートを展示している。「ミュージアムロード」と命名される以前にこのエリアに設置されたパブリックアートを少しご紹介したい。

平成 2 年 阪神電車岩屋駅前 松永勉氏 『風舞』

平成 14 年 兵庫県立美術館 新宮晋氏 『遙かなリズム』

兵庫県立美術館 オシップ・ザッキン氏 『住み処』

平成 21 年 兵庫県立美術館 元永定正氏 『くるくるきいろ』

ミュージアムロードと命名された後に設置されたパブリックアートは下記の通りである。

平成 23 年 兵庫県立美術館 元永定正氏 『きいろとぶるう』

平成 24 年 阪急電鉄神戸本線 灘文化軸倶楽部 『阪急アーチ橋・壁画プロジェクト』

平成 25 年 JR 西日本灘駅北側広場 中岡慎太郎氏 『セレナード』

同・南側広場 加藤昭男氏 『風の中』



左から松永勉氏 『風舞』 新宮晋氏 『遙かなリズム』 オシップ・ザッキン氏 『住み処』 加藤昭男氏 『風の中』

写真提供：兵庫県神戸県民センター



左上：元永定正氏『くるくるきいろ』 右上：同氏『きいろとぶるう』
 左下：灘文化軸倶楽部『阪急アーチ橋・壁画プロジェクト』 右下：中岡慎太郎氏『セレナード』
 写真提供：兵庫県神戸県民センター

■フロレンティン・ホフマン氏 『美かえる』

美術館は設計上は南が正面なので電車利用の来訪者にとっては裏から来ることになる。それでお出迎えの意味を込めてシンボルになるパブリックアートを屋上に置くことになった。『ラバーダック』の作者で知られるフロレンティン・ホフマン氏に依頼して制作された、帽子をかぶった 10mの巨大なカエルが平成 23 年に山側に向かって美術館の屋上に据え付けられた。正式名称は『Kobe Frog』である。葦豊館長は当初ホフマン氏に『ラバーダック』の制作を依頼したが、ホフマン氏は「『ラバーダック』は水に浮かべるものであるので別途考える」とのこと。それでできたのがこの『Kobe Frog』であった。

このカエルのオブジェを多くの方に親しんでいただけるよう愛称を募集したところ、700 件を超える応募があり、その中から、「美(み)かえる」という愛称を選定した。愛称決定理由は、下記の通りである。



『Kobe Frog』(愛称:美かえる)
 写真提供：兵庫県立美術館

①「かえる」ということばが「復活」をイメージしやすく、阪神・淡路大震災からの文化復興のシンボルとしての当館の設立趣旨にマッチする。

②ご来館いただいた方が美術館を出るとき、カエルのオブジェと美術館を「見かえる」こと、そして再び美術館を「見にかえる」ことを願って。

③愛称を応募いただいた方のコメント(美術館で得た美的センスを各自の家庭や職場に持ちかえることを願ってやまない)が、美術を通して「こころの豊かさの復興」や「子どもたちの感性の涵養」を目指す当館の事業方針にマッチする。

作品名:『Kobe Frog』(愛称:美かえる)

サイズ 高さ約8m、幅約10m

テント生地製の素材に空気を入れて立ち上がる構造

制作者:フロレンティン・ホフマン氏(オランダの芸術家)

・巨大なラバー・ダックを制作し世界各地で展示。日本では「水都大阪2009」以降、大阪をはじめ各地で展示されている。

設置場所:兵庫県立美術館屋上

■シンボルオブジェ 『PEASE CRACKER(ピースクラッカー)』

平成26年3月に、灘区摩耶海岸通りの歩道に、現代美術家の椿昇氏によるシンボルオブジェ『PEASE CRACKER』が完成し、制作者の椿昇氏を招いてのお披露目式が、3月29日に開催された。このオブジェは、サヤエンドウのような形をしており、ミュージアムロードの休息スポットとして、大きな豆のサヤの下には、豆の形をしたベンチがあり、子どもたちも目で見て、触って楽しめる作品になっている。このシンボルオブジェは、兵庫県立美術館や区役所とともに地元団体や周辺文化施設等と連携して、沿道のにぎわいづくりを創出する団体への支援をはじめ、シンボルオブジェの制作や関連イベントの開催などにより、地域の活性化に向けた取組を進めている神戸県民センターが設置者となっている。



『PEASE CRACKER』

写真提供: 兵庫県立美術館

作品名:『PEASE CRACKER』

サイズ 高さ4m、幅8.6m×奥行2.4m

制作者:椿 昇(つばき のぼる)氏(西宮市在住 京都造形芸術大学教授・現代美術家)

・松蔭女子学院中学校・高等学校の美術教師として、昭和53年～平成14年の間在任

・瀬戸内国際芸術祭2013の小豆島醬の郷+坂手港エリアディレクター等

設置場所:神戸市灘区摩耶海岸通2丁目3-1(ミュージアムロード歩道内)

■シンボルオブジェ『Sun Sister(サン・シスター)なぎさ』

平成27年6月、「ミュージアムロード」のシンボルオブジェ第2弾として、未来への希望をイメージするオブジェ『Sun Sister』が兵庫県立美術館南側に設置された。制作者は京都造形芸術大学教授・現代美術家であるヤノベケンジ氏である。過去・現在・未来を見つめ、希望の象徴としての「輝く太陽」を手に持ち大地に立つ少女像である『Sun Sister』は阪神・淡路大震災20年のモニュメントとして建立された。東日本大震災の復興を祈念して建立された

子ども像『Sun Child』(平成 24 年 茨木市)の姉のような存在であり、世界中のすべての災害からの復興・再生を見守っている。



『Sun Sister なぎさ』

写真提供：兵庫県立美術館 ヤノベケンジ©

作品名：『Sun Sister (サン・シスター)』(高さ約 6m、外装 FRP、ステンレス、鉄骨構造)

愛称『なぎさ』

制作者：ヤノベケンジ

・大阪府在住 京都造形芸術大学教授・現代美術作家

・「水都大阪 2009」にて、火や水を噴く龍が乗るアート船「ラッキードラゴン」、巨大ロボット「ジャイアント・トラヤン」等を発表し、大阪文化賞受賞。

・平成 24 年震災復興を掲げるモニュメント『「サン・チャイルド」』を大阪・南茨木駅前に設置。

設置場所：兵庫県立美術館南側敷地 大階段下(神戸市中央区脇浜海岸通 1-1-1)

(4) 近隣の団体等とのコラボレーション

平成 23 年 3 月、葺館長が阪神電車に頼んで岩屋駅に副駅名(兵庫県立美術館前)をつけてもらった。同年 7 月には兵庫県立美術館の「借りぐらしのアリエッティ×種田陽平展」と王子動物園とのコラボ企画(セット割引)をしてもらったりしている。また、ミュージアムロードの一環で神戸県民センターや灘区が主体となって JR 灘駅前でジャズのコンサート(ワンデージャズロード)が平成 26 年から、灘区総合芸術祭が平成 23 年から実施されている。このようにミュージアムロードを地域活性化の中心にするよう行政間の連携も進んでいる。

2. 美かえるカラフルプロジェクト

(1) 美かえるカラフルプロジェクトのはじまり

これまで述べてきたように、芸術文化施設の集積度が高い兵庫県立美術館から王子動物園までのルートが「ミュージアムロード」と命名され、街路樹の植樹やパブリックアートの設置などの整備が進んできたが、まだ「ミュージアムロード」らしさがあまり感じられなかった。沿線の活性化に取り組む阪神電車がデザイン・クリエイティブセンター神戸(KIITO)の永田宏和氏(NPO 法人プラス・アーツ理事長)に相談にいった。その結果、プラスクリエイティブゼミという社会的な課題をテーマにして市民を募って解決策を検討し発表するという取り組みのテーマに取り上げてもらった。検討の結果、活性化のために「ミュージアムロードらしさをだすために何か統一したキャラクターがあるといいね」という案が出された。兵庫県立美術館の上には『美かえる』という震災復興のシンボルでもある大きなカエルのオブジェがあるのでうまく活用できないか。ただ意匠をそのまま使うと権利関係が難しくなる。そこで『美かえる』からカラーを抽出してカラーパターンを作成し、そのカラーパターンをミュージアムロード周辺の街に展



「美かえるカラフルパターン」を使用したバナー

写真提供：兵庫県立美術館

開することで統一感をだしたり、回遊する仕掛けをつくったりしてはどうかというアイデアが出た。そして、兵庫県立美術館、神戸市灘区役所、阪神電車、灘文化軸倶楽部、灘駅前商店会、株式会社シマブンコーポレーション、デザイン・クリエイティブセンター神戸が参画し、「美かえるカラフルプロジェクト」が始動しはじめた。

(2) 阪神電車岩屋(兵庫県立美術館前) 駅を基点としたカラーパターンの展開

平成 25 年 11 月に阪神電車岩屋(兵庫県立美術館前) 駅の駅舎の壁に、地元の小学生が描いた『美かえる』の友だちかえると、『美かえる』のカラーパターンを設置するとともに、駅前広場に『美かえる』カラーのしずくをイメージした円形のデザインを塗装する公開制作を「美かえるカラフルプロジェクト」の皮切りとして行った。このように地元の子もたちや通行人を巻き込むなど地域の方に関わってもらうことによって、参加意識を醸成している。また、このカラーパターンは宝くじ売場と自動販売機(株コカ・コーラウエストの協



阪神電車岩屋駅

力により設置)にも適用された。平成 27 年 1 月には駅舎正面の壁面全体にカラーパターンが施され、駅の表情が一層明るくなった。また、ミュージアムロード沿い(国道2号線～兵庫県立美術館)にバナーを掲出したり、沿道企業に協力してもらって持っている資産のなかでカラーパターンを使った装飾の展開をしていただいたりしている。

(3) ミュージアムロード沿道店舗の参画

さらに来街者に楽しんでいただけるコンテンツということで地域の飲食店に阪神電車のスタッフが回ってカラーを使った特別メニューを出してもらえませんかと頼んだ。最初は 13 店舗から始まったが 25 店舗に広がった。特別メニューを提供している店舗を紹介するマップを阪神電車とシマブンコーポレーションで製作し平成 27 年から配布している。阪神電車の駅はもちろん、兵庫県立美術館、灘区役所にも置いてもらっている。マップの制作費はメニューを提供している店舗からも集めている。メニューを提供できないが趣旨に賛同する企業からは特別協賛をもらった。



ミュージアムロード散策マップ

(4) 美かえるカラフルマルシェ

今年 5 月 29 日(日)に阪神電車岩屋駅に隣接するシマブンビル内の BB プラザ 2 階のアトリウムで「美かえるカラフルマルシェ」が開催された。これは美かえるカラフルプロジェクトの新しい企画で、「体験」をテーマに、子ども向けのアートワークショップのほか、地元飲食店による料理教室を開催するとともに、地元の飲食店と酒蔵によるグルメブースなど、大人も子どもも気軽に立ち寄って楽しめるイベントとして、「美かえるカラフルプロジェクト」の関係団体や沿道店舗、さらには灘の酒蔵なども含め、持ち寄りでマルシェを行うという企画である。当日は周辺の家族連れやカップルなどで賑わい、ミュージアムロード沿道にちりばめられた「地域資源」に触れるきっかけとなった。



美かえるカラフルマルシェ

写真提供：兵庫県立美術館

(5)今後の展開

現時点でこのプロジェクトはまだ組織化はしていないが、参加された店舗の声としては兵庫県立美術館や阪神電車、シマブンなどとの取り組みに参加できて価値があったという声も聞こえるようになった。今後は地域の方々が自主的にカラーパターンを使っているいろいろなやりたいというふうになることを目指すとともに、マルシェの開催頻度を多くしていくなど、プロジェクトの定着と発展に取り組むたいと考えている。

3. 読者へのメッセージ

ミュージアムロード沿線の美術館では、様々な展覧会を実施しています。ぜひ、このエリアをゆっくり散策し、アートの醸し出す地域の魅力に触れてみてください。

〔兵庫県立美術館〕

特別展 生誕130年記念 藤田嗣治展—東と西を結ぶ絵画— 平成28年7月16日(土)–9月22日(木・祝)

特別展 世界遺産 ポンペイの壁画展 平成28年10月15日(土)–12月25日(日)

〔横尾忠則現代美術館〕

ヨコオ・マニエリスム vol.1 平成28年8月6日(土)–11月27日(日)

ようこそ！横尾温泉郷 平成28年12月17日(土)–平成29年3月26日(日)

〔BBプラザ美術館〕

辰野登恵子の軌跡／イメージの知覚化

前期 平成28年7月5日(火)–8月7日(日) 後期 8月9日(火)–9月19日(月・祝)

コレクション展 I 「日本画との対話—自然と人間—」

平成28年11月29日(火)–平成29年2月19日(日)

■このまちづくりレターは、兵庫県立美術館及び阪神電気鉄道株式会社経営企画室（沿線活性化担当）にヒヤリングをさせていただきました内容を基に当財団が編集し、原稿を兵庫県立美術館営業広報グループリーダー 古巻様に監修いただきました。

発行元・問合せ先 公益財団法人都市活力研究所
〒530-0011 大阪市北区大深町3番1号
グランフロント大阪 ナレッジキャピタル タワーC 7F
TEL 06-6359-1322/FAX 06-6359-1329